

[オープンアクセスの]劇的増加 2006 年 12 月および 2007 年の予測 (Heather Morrison)

Morrison, Heather. The Dramatic Growth December 2006 & Predictions for 2007.

The Imaginary Journal of Poetic Economics. Sunday, December 31, 2006.

<<http://poeticeconomics.blogspot.com/2006/12/dramatic-growth-december-2006.html>>

[概要]

オープンアクセスの劇的増加が、出版とセルフアーカイビングの両方で、2006 年の最後の四半期も続いた。Directory of Open Access Journals は 12 月に、2,500 タイトルを超過するという非常に重要な里程碑を通過した。世界中の査読雑誌の約 10% が現在、完全なオープンアクセスである。新しい雑誌が創刊されると、それらの少なくとも 30% は完全なオープンアクセスであろうという根拠がある。この傾向は、オンラインでかつオープンアクセス出版を非常に容易にする Open Journal System のような新しく、効果的で無料で利用できるオープンソース・ソフトウェアに、より多くの雑誌が精通するようになるので加速化しそうである。

オープンアーカイビングにおける目覚ましい増加がアーカイブと全文文献で継続している。追跡したすべてのアーカイブは 2006 年に非常に目覚ましい成長を示した。

オープンアクセス運動には今にも革新的な周辺から主流に浮上する兆候がある。オープンアクセスは、Peter Suber の 10,000 件を越える精選された、思慮に富むブログポストの一部を読んだ人が証明できるように、それ自体が学問領域で研究への意欲をかき立てるようになりつつある。しかしながら、オープンアクセス教育はまさに始まったばかりである。例えば、図書館学の博士課程の大学院生は、オープンアクセスとその関連テーマに興味深い研究領域として発見しつつある。学生は授業の中でオープンアクセスのことを耳にし始めているが、これが専門領域である教員から間もなく教えられることになる。

2007 年の私の予測は、オープンアクセスの継続し、加速化しつつある増加である。2007 年に予想する最も重要な傾向は、だが、実際はやや実体に乏しいものである。それは、オープンアクセスの賛否両論や実現可能性の議論から実行の細部についての堅実な作業への焦点の転換である。図書館員にとって、重要な点は、コレクションについての見方を、利用者が必要とするものの購入あるいはリースから私たちの研究者や他の研究者が制作したコレクションを構築し、保存へ転換することである。私はこの傾向を 2007 年の初めに見ている。

2006年9月から12月までの動向

2006年の最後の四半期は、追跡したオープンアクセスのすべての尺度における継続した目覚ましい増加で、年間の増加率は19%（DOAJについて）以上である。特に目覚ましい増加は年間の増加は55%（586文献の追加）であるE-LISと年間増加が40%（69,864件）であるPubMedCentralで顕著である。

コメント：E-LIS および PubMedCentral の両方に見られる目覚ましい増加は、大きな成功を収めるオープンアクセスの実装に多様な接近方法があることを説明している。図書館情報学のオープンアーカイブであるE-LISは、極めて分散したボランティア主体の組織で、世界中にボランティアの編集者が、イタリアに少数の中心的職員がいる。PubMedCentralは米国国立衛生研究所のプロジェクトで、非常に集中化された組織と有給の職員がいる。

概観

オープンアクセスにおける目覚ましい増加は、特定のイニシアティブの変動率に影響を及ぼす、一部の時期的な変数あるいは局所的な要因とかなり規則的な関係があり、それは現在、2006年を通じてオープンアクセス出版やアーカイビングについて確認されている。

Directory of Open Access Journalsは12月に2,500タイトルを越えた。詳細は、12月15日の報道発表「DOAJに2,500タイトルの雑誌」¹⁾を参照。全世界で25,000タイトル以上の査読雑誌があると見積もられている。この見積りが正しいとするならば、現在査読雑誌の10%が現在、完全なオープンアクセスである。

オープンアクセス雑誌の増加は既存の雑誌の変換やオープンアクセスとしての新たな雑誌の発展に由来する一方で、昨日[2006年12月30日]のブログポスト「新刊雑誌であればあるほどそれはオープンアクセスであるようだ」²⁾で論じたように、新刊雑誌はオープンアクセスとして開始される傾向が高まりつつあるという証拠がある。Ulrichによれば、開始年が20世紀の雑誌は10%以下がオープンアクセスであるようだが、一方で新しいミレニアムに開始された雑誌は約30%がオープンアクセスであるらしい。オープンアクセスについてのUlrichのデータには明らかに制約があり、オープンアクセス雑誌の過小評価という証拠がある。

本誌半期の劇的増加の更新に追加された新しい尺度は10カ国語、800タイトルのオンライン雑誌で現在使用中と見積もられているOpen Journal Systemである。この無料

で、オープンソース・ソフトウェアについて時間内の異なった時点での正確な数は不明であるが、これは、2003年にまさにリリースされたソフトウェアとしては驚くべき利用と発展である。この新しいソフトウェアの種類や無料の入手可能性がオープンアクセス出版に対する重要な支援なのでこれは特筆すべきである[公表：私は第1回国際PKP学術出版会議（First International PKP Scholarly Publishing Conference）⁴⁾の計画委員会の一員である]。

オープンアクセス運動には今にも革新的な周辺から主流に浮上する多くの兆候がある。最も目立つのは、発展した（例：英国研究評議会（RCUK））、発効中の（ウェルカム財団）あるいは本年から開始した（FRPAA、オーストラリア研究評議会、カナダ保健調査機構）オープンアクセス方針であった。

Peter Suber の 10,000 件を越え、精選され、有益で、興味深い Open Access News のブログや本年初めに 100 号を月刊の SPARC Open Access News⁵⁾ の読者として、オープンアクセスの現象はそれ自体が学問研究の領域として既に揺るぎないものである。

このような成熟の兆候があるにもかかわらず、オープンアクセスの実施は依然として初期段階にあり、事実、それはこの数年の間で最も話題となるだろう。

オープンアクセスの増加における次の急増の説明するものの一つは、オープンアクセスそれ自体についての広範囲にわたる教育の開始と関連している。Peter Suber やそれ以外の先駆的な指導者が長年にわたって学習者に授業を行っているが、他の人々はまだ授業の準備中である。2007年5月からブリティッシュ・コロンビア大学の図書館情報学研究大学院（SLAIS: School of Library and Information Studies）では、オープンアクセスに関する最初の科目が開講され、それは私が講義することになるだろう。

学生は既に多くの授業の中でオープンアクセスのことを耳にし始めている。他の多くの学問分野と同様に、図書館学（librarianship）ではここ数年の図書館学大学院の教員の大量の退職を見越して、新しい世代の教員をすぐに探すだろう。今日の博士課程の大学院生にとって、オープンアクセスとその関連テーマは最も流行の研究領域である。ここ数年のうちに、多くの図書館学大学院はこの領域の専門家である一人あるいは複数の教員を擁することになるだろう。

博士課程の大学院生についていえば、オープンアクセスが急激に増加している最初の領域は、学位論文の OA アーカイビングである。この成果の一つは、オープンアクセスに精通した修了生—新米教員や新米の専門家やビジネスピープルーで、新しいグループ

全体が、唱道者や OA の支持者の正当な取り分以上のものを生み出しそうである。

私の予想は、研究者が助成機関による義務化に対応してオープンアクセスについての学習を優先し、オープンアクセスとオープンデータのような関連イニシアティブについて学習し、オープンアクセスをもっと受け入れ、支持するであろうということである。図書館員やその他の人々による教育がこの先非常に役に立つ要因となろう。義務化の方針はインセンティブをもたらし、図書館員はますます情報の提供や必要な支援に役立つことをいとわなくなるだろう。

2007 年に発生すると予想する最も重要な傾向は、だが、実際はやや実体に乏しいものである。それは、オープンアクセスの賛否両論や実現可能性の議論から実施の細部についての堅実な作業への焦点の転換である。図書館員にとって、2007 年に予測する重要な傾向は、コレクションについての見方を、利用者が必要とするものの購入あるいはリースから私たちの研究者が他の研究者が制作したコレクションを構築し、保存へ転換することである。これはとらえにくい転換であり、おそらく間違いなく、従来の価値への回帰を反映したものである。それは、しかしながら転換への手がかりである。私見によれば、私たちが、万人と共有するために、私たちの研究者の著作のコレクションの構築と保管を行うことが図書館業務 (librarianship) の核心であることをいったん理解するならば、それ以外のことはそれなりにうまく収まるだろう。

データ

以前の数値は私のプレプリント、「オープンアクセスの劇的増加：資源共有に持つ意味と好機 (*The Dramatic Growth of Open Access: Implications and Opportunities for Resource Sharing*)」*Journal of Interlibrary Loan, Document Delivery & Electronic Reserve*, 16,3 (2006)⁶⁾および以下の更新資料からとった

2005 年 12 月 31 日更新資料および 2006 年予測 (Dec. 31, 2005 Update and 2006 Predictions)⁷⁾

2006 年 3 月 31 日更新資料 (March 31, 2006 Update)⁸⁾

2006 年 6 月 30 日更新資料 (June 30, 2006 Update)⁹⁾

2006 年 9 月更新資料 (September 2006 Update)¹⁰⁾

Directory of Open Access Journals¹¹⁾

2006 年 12 月 31 日現在：2,514 タイトル (過去 30 日間で 30 タイトル追加)

2006 年 9 月 30 日現在：2,401 タイトル (過去 30 日間で 45 タイトル追加)

2006 年 6 月 30 日現在：2,292 タイトル (過去 30 日間で 38 タイトル追加)

2006 年 3 月 31 日現在：2,158 タイトル (過去 30 日間で 78 タイトル追加)

2005年12月31日現在：1,988 タイトル

2005年2月－1,400 タイトル以上

これは2006年9月から12月の間に113タイトルが増加し、4.7%の増加率あるいは年間19%の増加率に相当する。2006年の全増加タイトル数は526で、年間26%以上の増加、あるいは暦日当たりほぼ平均1.5タイトルの増加であった。この数値は、2006年初めの削除プロジェクトを反映しているため、実際の増加よりたぶん低く見積もられていることに注意しなさい。

2006年12月31日現在：747 タイトルが論文レベルで検索可能－DOAJ全体で124,033論文が検索可能

2006年9月30日現在：697 タイトルが論文レベルで検索可能－DOAJ全体で109,840論文が検索可能

2006年6月30日現在：653 タイトルが論文レベルで検索可能－DOAJ全体で101,434論文が検索可能

2006年3月31日現在：594 タイトルが論文レベルで検索可能－DOAJ全体で92,751論文が検索可能

2004年12月31日現在：492 タイトルが論文レベルで検索可能－83,235[論文]

これは2006年9月から12月の間に50タイトルが増加し、7%の増加率あるいは年間28%の増加率に相当する。

DOAJのリストはすべてのオープンアクセス雑誌を示していない。DOAJの採録基準に合った雑誌でDOAJの検査プロセスを経たもののみを示すことに注意せよ。Jan Szczepanskiのリスト¹²⁾はずっと長い。2005年12月初めで4,705タイトル以上であった。

Open Journal Systems¹³⁾

800タイトルの雑誌が、10カ国語でOJS（2006年6月現在）を使用している。

OAlster¹⁴⁾

2006年12月21日現在：9,931,910 レコード，726 機関

2006年9月27日現在：9,417,772 レコード，680 機関

2006年6月30日現在：7,605,729 レコード，647 機関

2006年3月22日現在：7,040,586 レコード，610 機関

2005年12月22日現在：6,255,599 レコード，578 機関

2005年2月現在：500万レコード以上，405機関

これは四半期における514,138レコードの増加，あるいは年間200万件を超えるレコードの増加に相当する。率にすると，これは本四半期の5%増加，年間約20%の増加に相当する（第3四半期よりも非常に低い増加）。[参加]機関は46.7%増加し，あるいは年間28%の増加に相当する。

2006年全体（2005年12月22日－2006年12月21日）では，OAIsterは3,676,311レコードの増加，59%のレコードの増加率，148機関，26%の増加。

The Registry of Open Access Repositories は，2006年12月31日現在で792アーカイブが収録されている。2006年9月30日の746アーカイブから46あるいは6%の増加，年間24%の増加に相当する。

HighWire Press 無料オンライン・フルテキスト論文（HighWire Press Free Online Fulltext articles）¹⁵⁾

2006年12月31日：1,552,467 無料全文論文

2006年9月30日：1,435,924 無料全文論文

2006年6月30日：1,354,599 無料全文論文

2006年3月31日：1,335,546 無料論文

2005年12月31日：1,131,135 無料論文

2005年1月初め：800,000 を超える無料論文

これは116,543論文の増加，あるいは8%の増加（年間32%増加相当）。

2006年全体では，これは421,332論文，あるいは37%の年間増加。

PubMedCentral¹⁶⁾

2006年12月31日：766,387OAI[準拠]レコード，100%無料で利用可能

2006年9月30日：696,503OAI[準拠]レコード，100%無料アクセス可能（Tim Brody 博士による Register of Open Access Repositories (ROAR)¹⁷⁾からのデータ）。ROAR のサイトは，たとえ初めだけにせよ PMC のめざましい増加曲線を示す。

これは四半期で69,884レコードの増加，10%の増加，あるいは40%の年間増加。

arXiv¹⁸⁾

2006年12月31日：400,814e プリント（e-prints）

2006年9月30日：386,716e プリント

2006年6月30日：374,166e プリント

2006年3月31日：362,334e プリント

2005年12月31日：物理学，数学，コンピュータ科学および量子生物学における

350,745e プリントへのアクセス。

これはこの四半期で 14,098e プリントが増加し、この四半期で 3.6%の増加あるいは年間で 15%の増加に相当する。

2006 年全体で、これは 50,069e プリントの増加、増加 14%。

RePEC: Research Papers in Economics¹⁹⁾

2006 年 12 月 31 日 : 451,000 件を超える関心のある記事, 343,000 件を超える記事がオンラインで利用可能

2006 年 9 月 30 日 : 428,000 件を超える関心のある記事, 321,000 件を超える記事がオンラインで利用可能

2006 年 6 月 30 日 : 385,000 件を超える関心のある記事, 282,000 件を超える記事がオンラインで利用可能

2006 年 3 月 31 日 : 367,000 件を超える関心のある記事, 266,000 件を超える記事がオンラインで利用可能

2005 年 12 月 31 日 : 357,000 件を超える関心のある記事, 250,000 件を超える記事がオンラインで利用可能

2005 年 2 月 : 200,000 件を超える記事が無料で利用可能

これはオンラインで利用できる記事の 23,000 件, 5%の増加, あるいは年間 20%の増加に相当。

2006 年全体で、これは 101,000 件の関心のある記事の増加、29%増加。

E-LIS²⁰⁾

2006 年 12 月 31 日 : 4,871 文献

2006 年 9 月 30 日 : 4,285 文献

2006 年 6 月 30 日 : 3,885 文献

2006 年 3 月 31 日 : 3,359 文献

2005 年 12 月 31 日 : 3,095 文献

これは 586 文献の増加で 14%の増加あるいは年間 55%の増加に相当。

2006 年全体で、これは 1,776 文献で、57%増加。

カナダ研究図書館協会 : メタデータ・ハーベスタ (Canadian Association of Research Libraries: Metadata Harvester)²¹⁾

2006 年 12 月 31 日 : 25,080 レコード, 12 アーカイブ

2006 年 9 月 30 日 : 24,370 レコード, 12 アーカイブ

2006 年 6 月 30 日 : 22,819 レコード, 12 アーカイブ

2006 年 3 月 31 日 : 22,566 レコード, 12 アーカイブ

2005年12月31日：21,922 レコード，11 アーカイブ

これは710件，あるいは2.9%の増加（年間12%[の増加]に相当）。第3四半期のはっきりとした増加に比べて著しく低いが，第2四半期の増加よりは顕著である。年間4%相当の増加率から12%年間増加率に増加したというのがより現実的だろう。第3四半期の増加にはアーカイブの一つが間違っって追加したメタデータのみレコードが含まれていた。それはその後除去された。

オープンアクセスの劇的増加を説明する優れた他のデータソースは，Tim Brody 博士による Registry of Open Access Repositories (ROAR) ¹⁷⁾で，それは746 アーカイブの OAI[準拠]レコード，全文の推定割合および各アーカイブの増加を示す図を提供する。ミシガン大学デジタル図書館製作サービスの OAIster もまた現在，ハーベストするアーカイブとレコードの増加グラフを特徴としている。

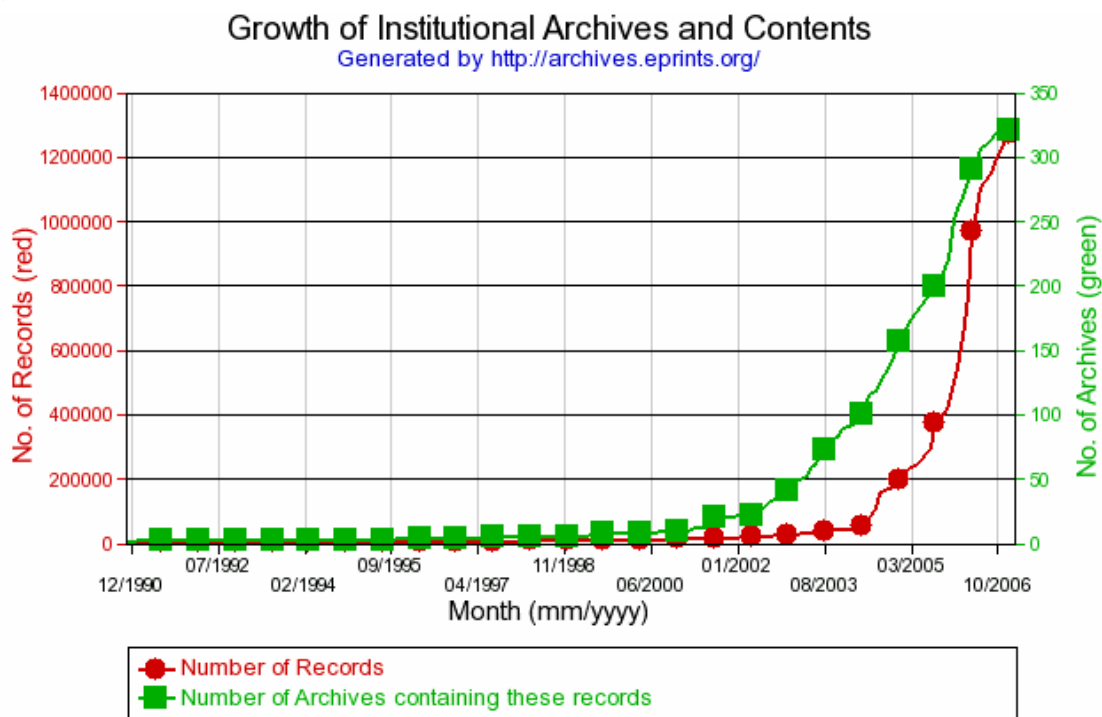
本文のリンク先

- 1) <http://www.doaj.org/doaj?func=loadTempl&templ=061215>
- 2) <http://poeticeconomics.blogspot.com/2006/12/newer-journal-more-likely-it-is-open.html>
- 3) <http://pkp.sfu.ca/?q=ojs>
- 4) <http://ocs.sfu.ca/pkp2007/index.php>
- 5) <http://www.earlham.edu/~peters/fos/newsletter/archive.htm>
- 6) <http://ir.lib.sfu.ca/handle/1892/510>
- 7) <http://poeticeconomics.blogspot.com/2005/12/dramatic-growth-of-open-access-dec-31.html>
- 8) <http://poeticeconomics.blogspot.com/2006/03/dramatic-growth-of-open-access-march.html>
- 9) <http://poeticeconomics.blogspot.com/2006/06/dramatic-growth-june-2006.html>
- 10) <http://poeticeconomics.blogspot.com/2006/10/dramatic-growth-september-2006.html>
- 11) <http://www.doaj.org/>
- 12) <http://pkp.sfu.ca/?q=ojs>
- 13) <http://www.his.se/templates/vanligwebbsida1.aspx?id=20709>
- 14) <http://oaister.umdl.umich.edu/o/oaister/>
- 15) <http://highwire.stanford.edu/lists/freeart.dtl>
- 16) <http://www.pubmedcentral.nih.gov/>
- 17) <http://roar.eprints.org/>
- 18) <http://arxiv.org/>

- 19) <http://repec.org/>
- 20) <http://eprints.rclis.org/>
- 21) <http://carl-abrc-oai.lib.sfu.ca/>

参考

1) ROAR 収録アーカイブおよびレコードの増加 (2007年1月4日現在)



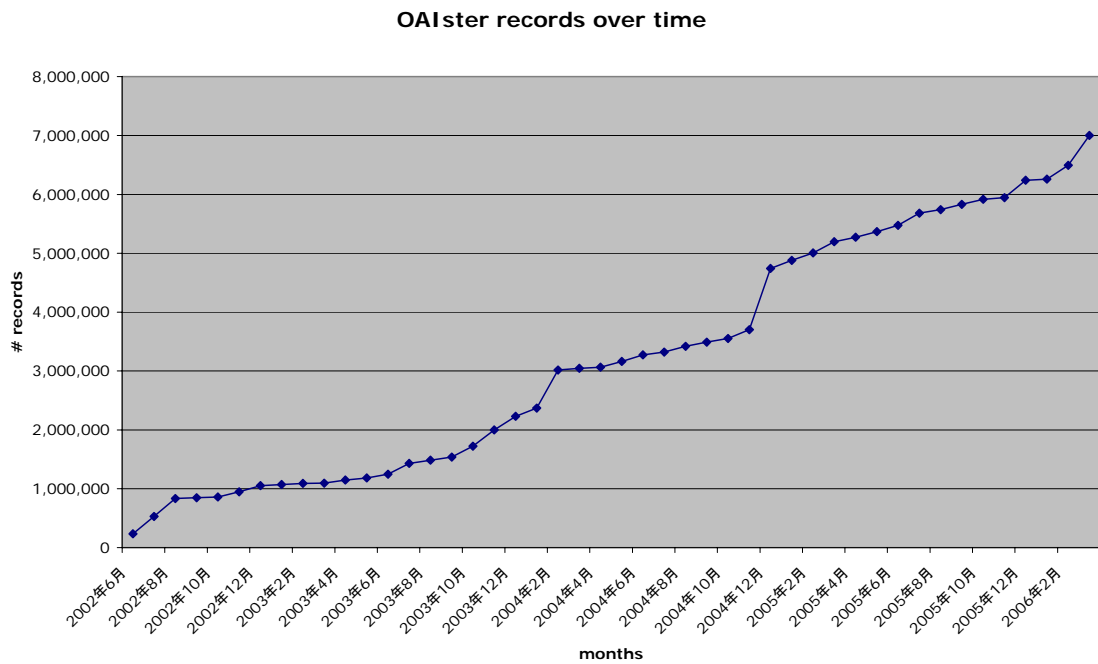
なお、リポジトリのディレクトリによって収録されているリポジトリ数にやや違いがある。

2006年12月31日現在のリポジトリ数

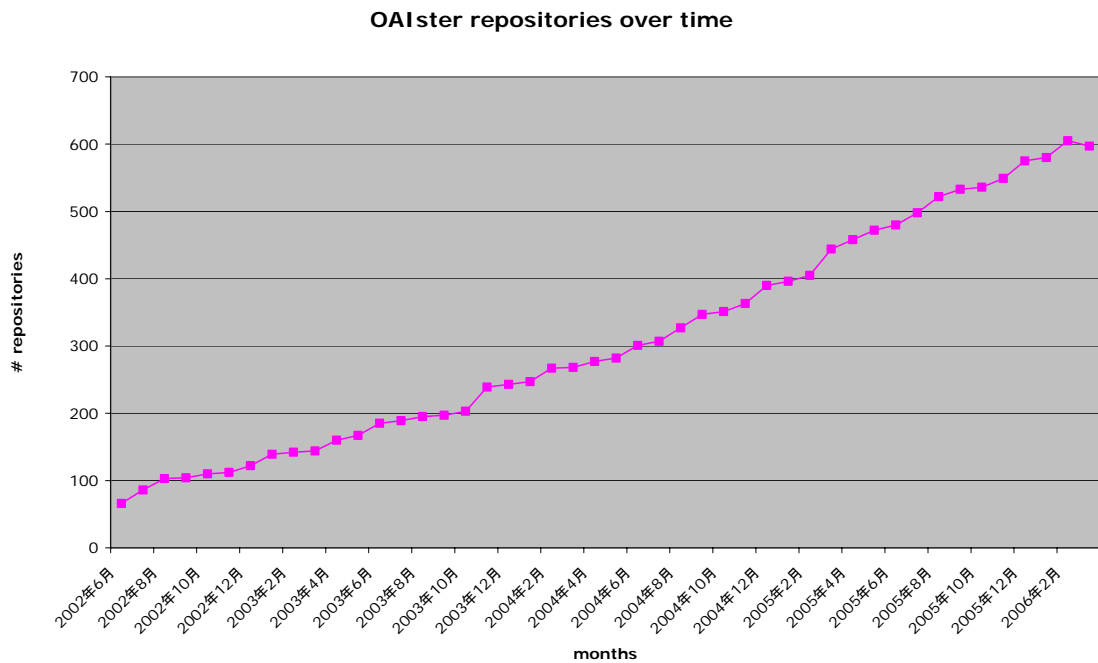
ディレクトリ	数
OAIster	726
ROAR	729
OpenDOAR	833
ScientificCommons	840
OpenArchives.eu	1,146

出典 : SPARC Open Access Newsletter, #105, 1/2/07

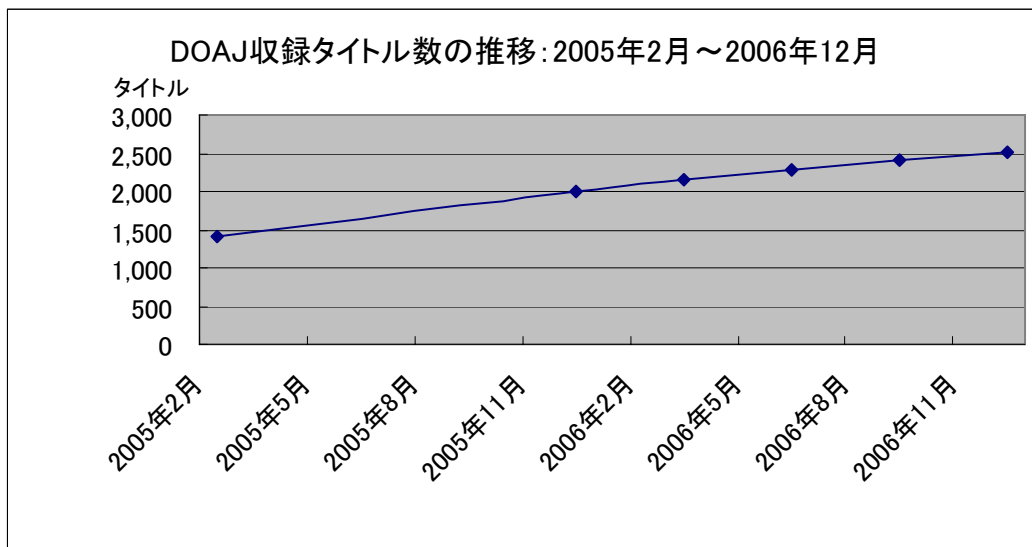
2) OAIster 収録レコードの増加 (2006年3月まで)



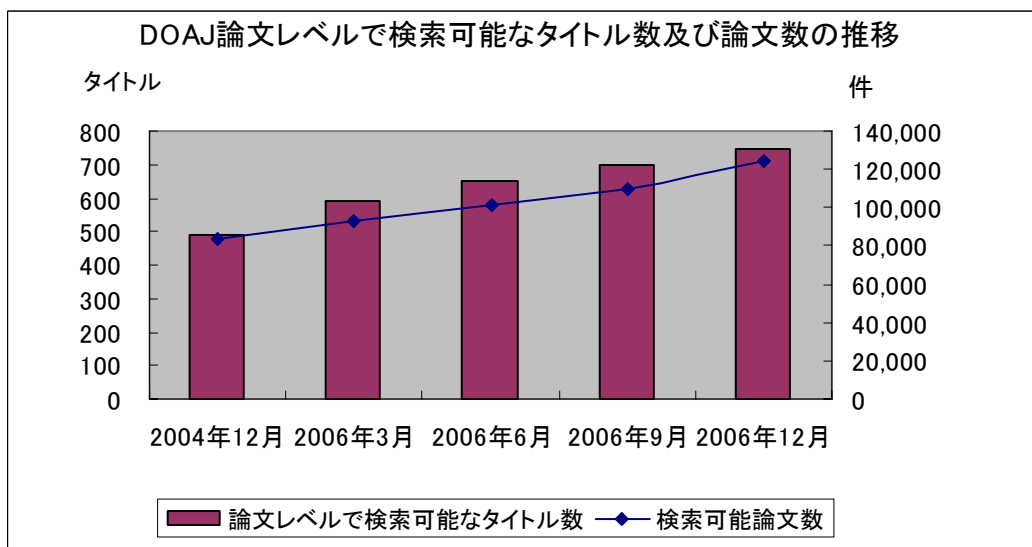
3) OAIster 収録リポジトリの増加 (2006年3月まで)



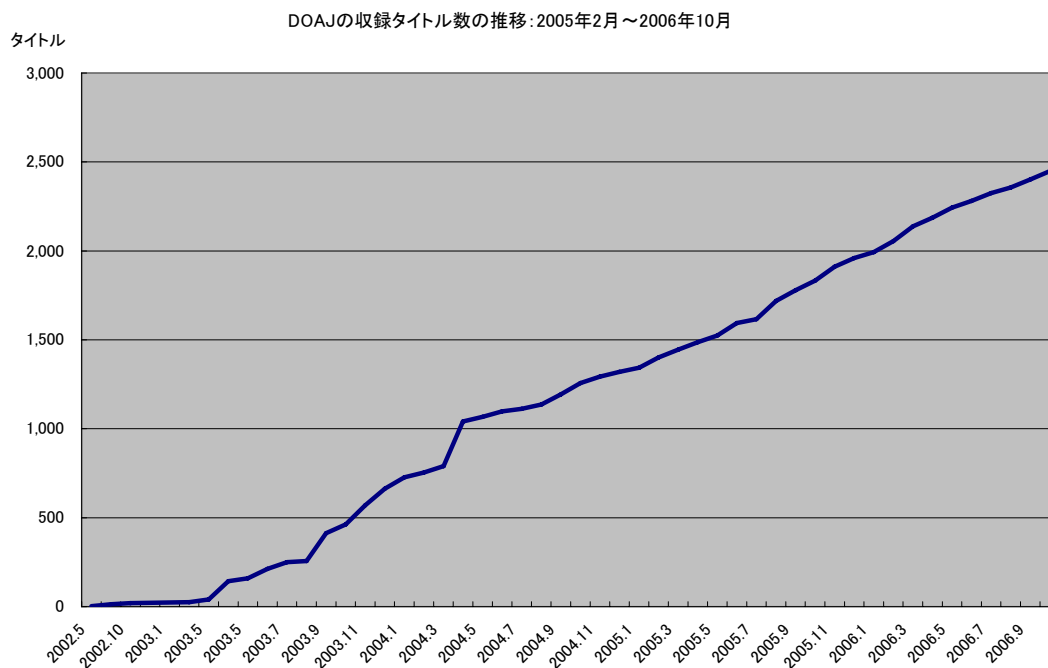
4) DOAJ 収録タイトル数の推移 2005年2月～2006年12月



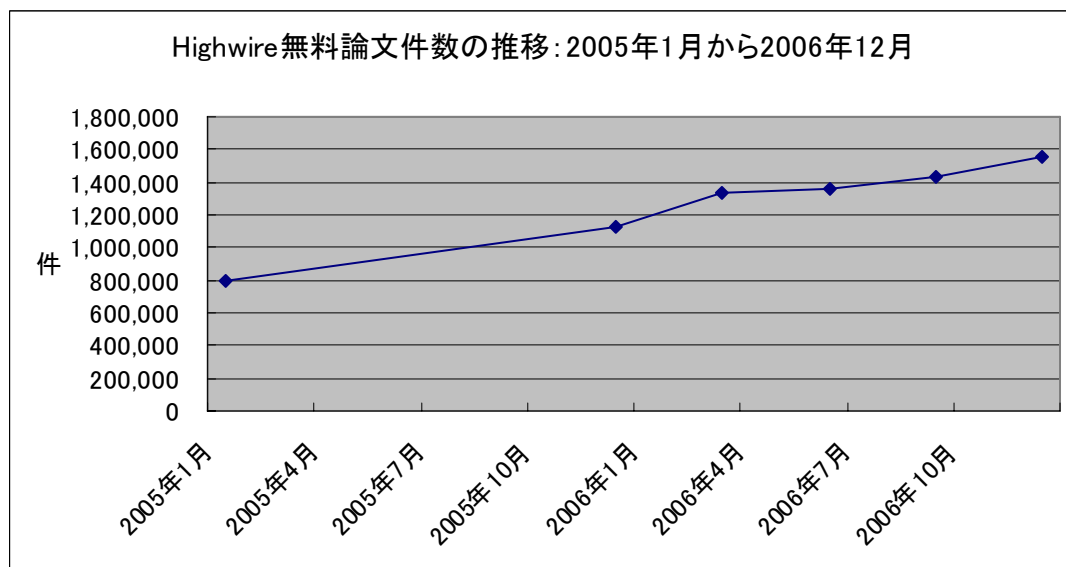
5) DOAJ 論文レベルで検索可能なタイトル数及び論文数の推移



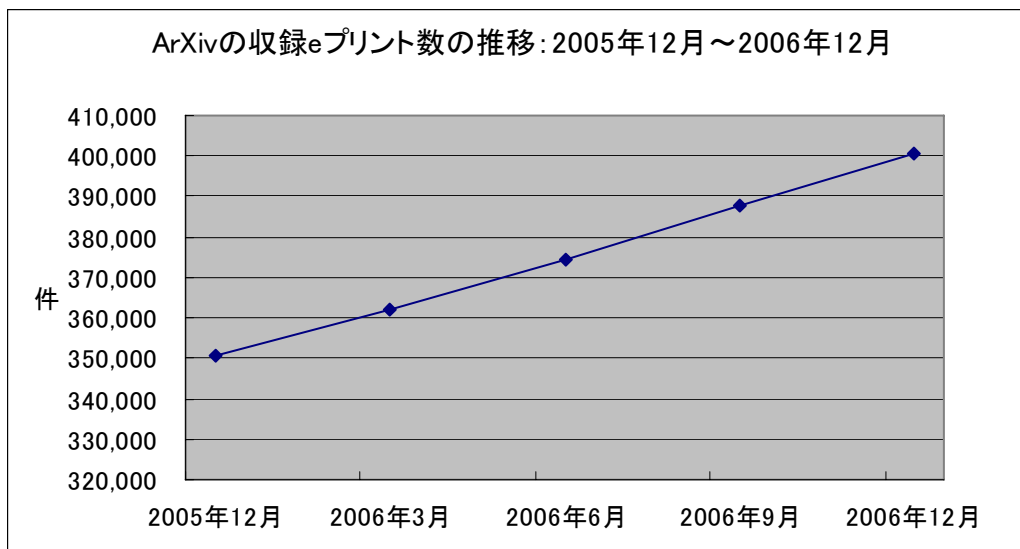
6) DOAJ の収録タイトル数の推移



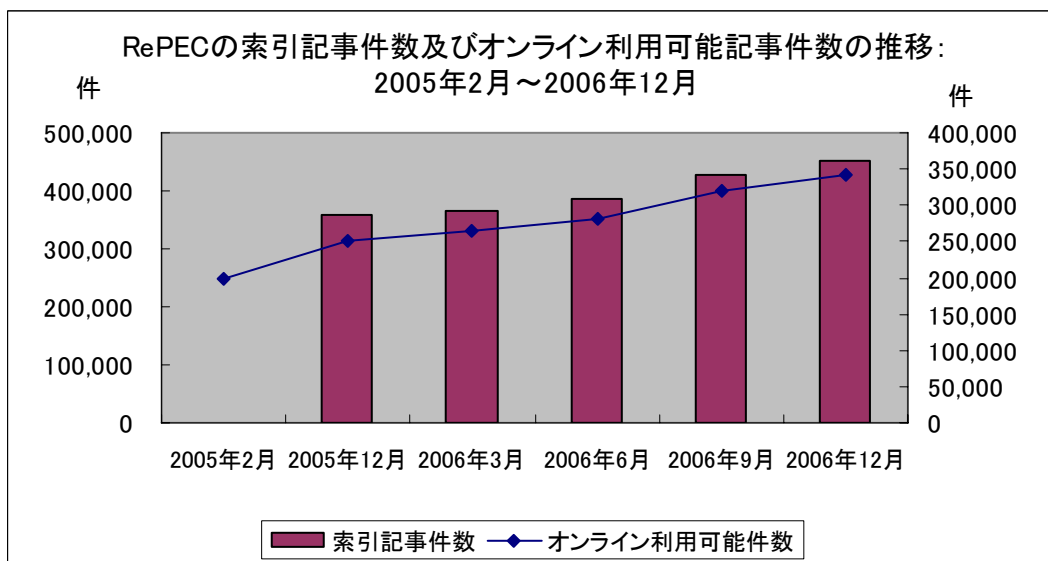
7) HighWire 無料論文件数の推移



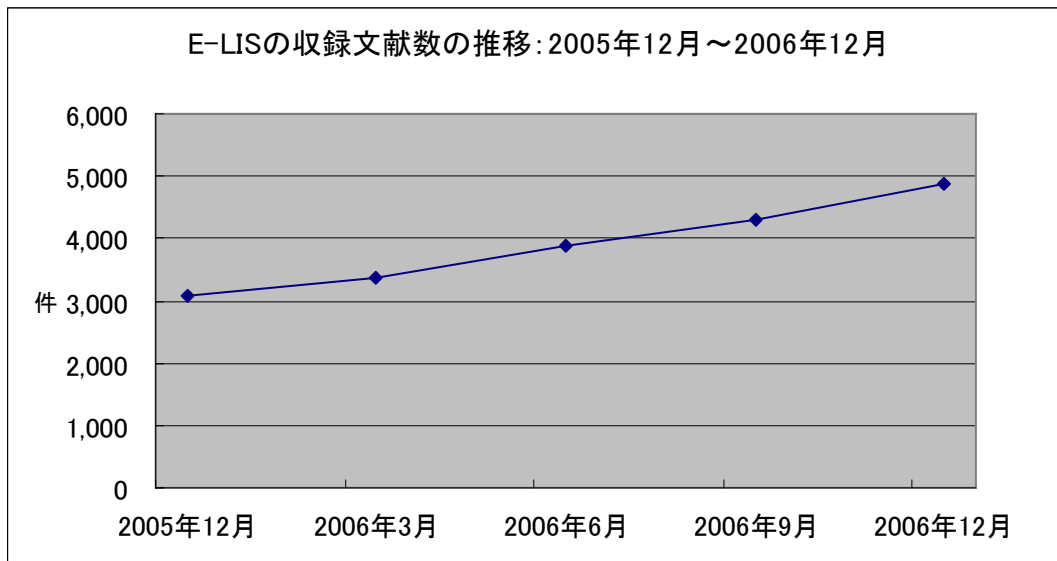
8) ArXiv の収録 e プリント数の推移



9) RePEC の索引記事数及びオンライン利用可能記事数の推移



10)E-LIS の収録文献数の推移



著者の所属

BC Electronic Library Network, located at Burnaby Mountain Campus, WAC Bennett Library, Simon Fraser University.